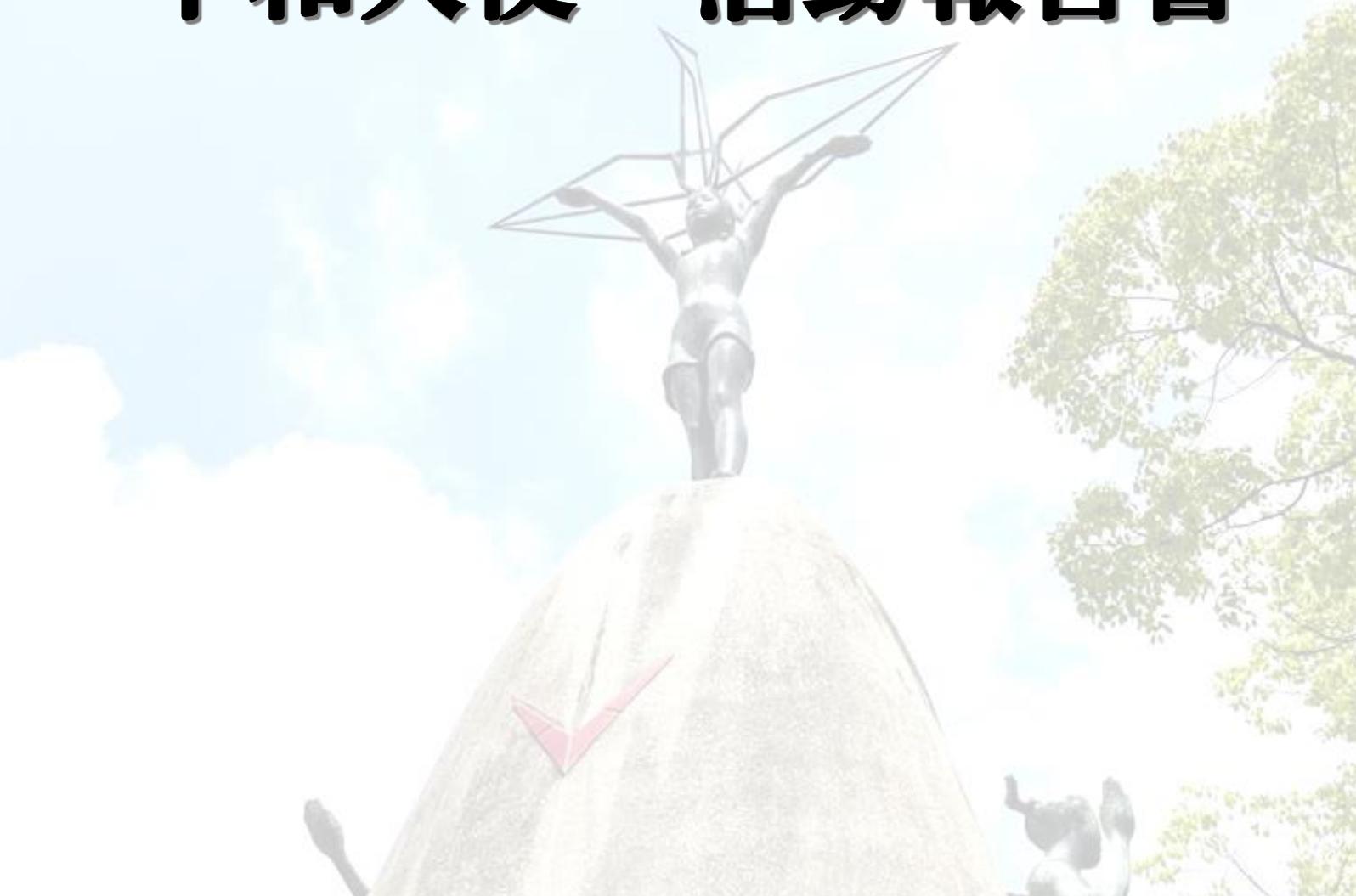


令和4年度 広島平和記念式典派遣事業

平和大使 活動報告書



「非核平和都市宣言」 (平成18年12月25日)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
III	令和4年度 広島平和記念式典派遣事業 日程・・・・・・・・・・・・	3
IV	研修レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	① 出発式 平和大使決意表明	
	② 平和大使レポート	
	燕中学校 栗谷川 恋	
	小池中学校 長谷川 宙生	
	燕北中学校 竹田 心音	
	吉田中学校 田中 大成	
	分水中学校 小林 日向	
	③ 引率者レポート	
	学校教育課 指導主事 篠崎 健太郎	
	学校教育課 指導係 主事 小川 綾花	
V	派遣事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
VI	広島平和記念式典派遣事業の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

広島・長崎の被爆の悲劇から、今年で77年が経ちました。戦争を知らない世代も増え、悲惨な記憶を風化させることのないようにしなければなりません。私たちは、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、世界でただ一つの被爆国の国民としてしっかりと理解し、後世に永遠に語り継いでいくことを大切にしなければなりません。

世界に目を向けてみますと、地域紛争や戦争、あるいはテロ行為によって、今もなお多くの人々の尊い命が失われています。

燕市は、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。そして、平成20年度から広島平和記念式典へ燕市内中学校5校の代表生徒の派遣を始め、今年で12年目を迎えました。

生徒たちは、平和大使として、各学校で制作した千羽鶴の奉納、広島平和記念資料館や原爆ドームなどの見学、被爆体験講話の聴取、とうろく流しなどを体験してきました。そして、9月4日の報告会では、生徒たちが、直接目と耳で学び、肌で感じてきたこと、そして一人一人が考えた「平和を守るためにできること」を市民の方々へ発表してくれました。

戦争の体験を語れる方が減ってきている中で、直接話を伺い、資料などを目にしてきたことはとても貴重な体験だったと思います。平和大使たちには、これからも、体験し、感じたことを学校、家庭、地域、そして世界へ向けて発信するとともに、平和の大切さ、命の尊さについて考える機会をさらに広げ、自らできること考え、積極的に行動してほしいと思います。まずは、相手の気持ちを思いやること、人の痛みを理解することが、その第一歩だと思います。今後の平和大使の活躍に期待しています。

終わりに、今回の事業実施にあたり多くの方々からご協力を賜わりましたことに、心から御礼を申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育委員会教育長 小林 靖直

燕市では、非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内5つの中学校の代表生徒を平和大使として広島へ派遣しています。平和大使は、広島平和記念式典へ出席するとともに、各中学校の生徒たちが、戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りし、平和への願いを込めて作った千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納してきました。

私たちは、広島原爆投下について、学校での学び、テレビ、新聞などでの報道から、亡くなられた方の数や当時の惨状などを知っています。しかし、実際に広島市を訪ね、そこで触れる、人、もの、こと、ぬくもりと広島平和記念式典の空気は、教科書や新聞などの文字や写真だけでは伝わらないことを、私たちに教えてくれます。

今回、平和大使として広島へ派遣された5名は、五感を働かせ、現地を訪ねたからこそ分かること、感じられることなどをたくさん吸収してきました。戦争や平和について考え、この平和を守っていくために、できることから行動し、未来をつくろうという思いが、この報告書を読んでいただければ伝わるものと思います。

終戦から77年が経ち、その歴史を私たちに伝えてくれる語り部の方も年々少なくなってきました。貴重な体験をしてきた平和大使の皆さんには、戦争や核兵器の使用という過ちを二度と繰り返さぬよう、学んだこと、感じたこと、そして平和の尊さを未来の世代にしっかりと伝承して欲しいと願っています。

最後になりますが、広島平和記念式典派遣事業を開催するにあたり、平和大使の皆さんを快く送り出してくださった保護者の方々、ご支援、ご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

令和4年度 広島平和記念式典派遣事業 日程

事前研修 7月11日(月) 18:30 ~ 20:00

- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 広島平和記念式典派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)
 - ・当日までの準備



1日目 8月5日(金)

- ◇ 出発式(燕市役所) 6:50 ~ 7:10
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:02 ~ 14:23
- ◇ 被爆体験講話(広島市青少年センター) 15:15 ~ 16:15
- ◇ 平和記念公園 16:30 ~ 19:00
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
 - ・広島平和記念資料館見学
- ◇ ホテルにてミーティング 20:20 ~ 20:30



2日目 8月6日(土)

- ◇ 広島平和記念式典参加 8:00 ~ 8:50
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(子ども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・平和の歌(合唱)
- ◇ 献花 9:30 ~ 10:30
- ◇ 広島平和記念公園 11:00 ~ 12:10
 - ・ボランティアガイドによる公園内見学
- ◇ ヒロシマの心を世界に2022見学 13:30 ~ 15:00
 - ・広島市舟入高等学校演劇部による演劇鑑賞
- ◇ 灯籠流し受付 15:20 ~ 16:00
- ◇ 広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 16:30 ~ 18:00
 - ・被爆体験記朗読会参加
- ◇ ホテルにてミーティング 20:30 ~ 20:35



3日目 8月7日(日)

- ◇ おりづるタワー見学 10:00 ~ 11:00
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:29 ~ 18:34
- ◇ 解散(燕市役所) 18:45



研修レポート

① 出発式 平和大使決意表明

② 平和大使レポート

燕中学校 栗谷川 恋

小池中学校 長谷川 宙生

燕北中学校 竹田 心音

吉田中学校 田中 大成

分水中学校 小林 日向

③ 引率者レポート

学校教育課 指導主事 篠崎 健太郎

学校教育課 指導係 主事 小川 綾花

令和4年度 広島平和記念式典派遣事業 出発式 平和大使決意表明

■燕中学校：栗谷川 恋

広島で学んだことを、帰ってきたとき、みんなに伝えられるように精一杯勉強してこようと思います。

■小池中学校：長谷川 宙生

私は、この派遣を通して原爆の悲惨さや事の重大さを学び、そして、広島でしか感じられないことを一人でも多くの人に伝えられるようにしていきたいと思っています。

■燕北中学校：竹田 心音

私は、この広島派遣で、原爆や戦争について、今まで以上に考えを深め、実際に広島でしか学ぶことのできないことをたくさん学んで来たいと思います。また、学んできたこと、感じたことを周りの人にしっかり伝えられるように頑張ります。

■吉田中学校：田中 大成

今回の派遣では、積極的に活動をし、世界で唯一の原爆の記憶を燕市に伝えられるようにしていきます。

■分水中学校：小林 日向

私が広島に行って学びたいことは、平和の尊さについてです。今の日本は豊かな生活を送っていますが、77年前に起きた原爆投下によって、多くの人が亡くなってしまったり、苦しい生活を強要されたりしていました。最近はそのような過去があるにも関わらず、今ある平和の尊さが失われつつあります。そこで、私自身が現地へ行って平和について学び、それを学校生徒だけでなく市民の方々に思い出してもらうために、いろいろなことを学び、正しく伝えていけるようにしていきたいです。そして、一人の継承者として頑張りたいです。

1. 事前学習「現在の世界情勢について」

(1) ロシアによるウクライナの軍事侵攻

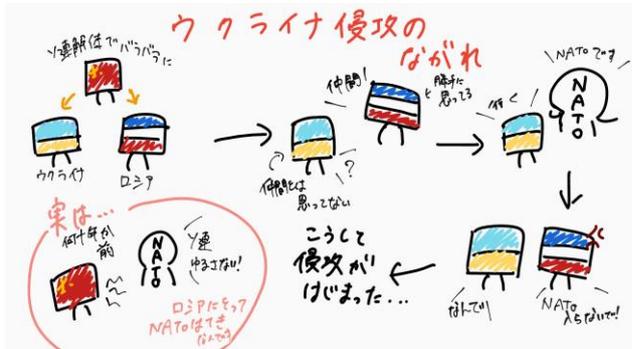
2022年2月24日にロシアによるウクライナの軍事侵攻が始まりました。この侵攻で多くのウクライナ人の命が奪われ、今も苦しんでいる人が大勢います。ニュースでこの話題を見聞きすると、とても胸が痛みます。そこで、ウクライナ情勢についてもっと知りたいと思い、詳しく調べました。

(2) ロシアがウクライナを攻撃する理由

ロシアがウクライナを攻撃する一番の理由はウクライナのNATO(北大西洋条約機構)加盟を阻止するためです。

詳しく説明すると、NATOは元々ソ連(今のロシア)に対抗するために結成されました。そのため今もロシアとNATOは対立しています。ウクライナはというとNATOの加盟に積極的です。ロシアはウクライナのことを兄弟

国と思っています。そのためウクライナのNATO加盟はロシアにとって自分たちが仲間だと思っているウクライナが自分たちの仲間から外れるということになるのです。そのため、何としてでもウクライナをNATOに加盟させないためにロシアはウクライナを攻撃しはじめたのです。



(3) 侵攻による被害

この侵攻によりウクライナ側の死者が1万人超(民間人と軍人)ロシア側の死者も1万人超(軍人のみ)といわれています。また被害額は14億ドル(19兆円)を超えており多くの方が苦しんでいます。他の国もロシア産の石油の輸入をほとんど禁止しており石油不足に悩まされています。

(4) 他の国々による支援

他国によるウクライナへの支援額は約1兆円を超えているといわれています。また、資金だけでなく、近隣国は食料を送ったり難民の受け入れをしたりしています。日本にも支援団体が多数ありウクライナを支援しています。今回はウクライナについてまとめましたが、他の国でも紛争が起っています。そんな国々にも支援が行われています。

<主な支援団体>

AAR Japan	日本ユニセフ協会	ワールド・ビジョン・ジャパン	ピースウィンズ・ジャパン
国連 UNHCR 協会	ジャパン・プラットフォーム	ADRA Japan	セーブ・ザ・チルドレン

他

2. 学びの記録「広島平和記念公園」

広島平和記念公園に実際に行ったときの第一印象は、とても広くて緑が多いというものでした。77年前に原爆の被害を受けたことを感じさせないほど緑が溢れていました。

(1) 原爆ドーム

原爆ドームを実際に見てみて、写真からは感じ取ることのできない迫力を感じました。ドーム部分の鉄骨がむき出しになっており、壁には無数のひびが入っていました。現代でも当時の原爆の悲惨さが伝わる建物でした。また所々に補修工事の跡があり、広島に生きる人々が原爆ドームを残そうと思っていることがよく伝わってきました。これからも多くの人々に核の恐ろしさを伝えていく存在であってほしいです。

(2) 原爆の子の像

原爆の子の像は原爆によって亡くなってしまった子どもたちの霊を慰め、平和な世界になるようにと募金で建てられた像です。原爆の子の像は実際に見てみると想像よりも大きく、像の上にいる少女が空高くにいるように感じました。像の中には千羽鶴がモチーフとなった鐘が吊るされていました。私も戦争が2度と起きないようにと願いを込めて鳴らしました。

(3) 最後に

平和記念公園の建造物の意味を知り、記念公園に込められた思いに気づくことができたと思います。それは、「2度と核兵器が使われませんように」「もう戦争は起きないで欲しい」というヒロシマの方々の思い・願いが込められていると私は思いました。これからも平和の象徴としてずっと残っていてほしいです。



写真／原爆ドーム

3. 学びの記録

この派遣事業を通してたくさんの気づきがありました。

(1) 広島のみちを見て

私が初めて広島を見たとき、とても発展しているというのが第一印象でした。建物が多く建っており、緑もとても豊かだと思いました。77年前の被害を感じさせないほど広島は発展していました。

また道の所々に平和を願うメッセージが掘られた小さな記念碑がありました。広島は今一番平和に近いまちなのだと感じました。

(2) 広島平和記念資料館前の噴水

広島平和記念資料館の前にはとても大きな噴水があります。私はこの噴水にはどのような意味があるのだろうと考えました。

8月6日に行われた広島平和記念式典にて献花と共に献水が行われました。献水は、水を求めて亡くなった方々に広島
の聖水を送るというものです。

それを受けて、資料館前にある噴水に込められたのは、水を求めて亡くなった方々に水を送るという意味で空高くに水を噴き上げているのだと思いました。

広島のみちにあるもの一つ一つに意味が込められているのだと感じました。



写真／資料館前の噴水

(3) 原爆詩朗読会

私はこの朗読会で原爆詩を朗読しました。私が読んだ詩は原爆の後遺症に苦しむ学校の先生の詩で原爆による後遺症について書かれたものです。この詩を読んで、原爆による被害は長い間続き、体と心に傷をつけるものだと知りました。

(4) 最後に

私が派遣事業を通して一番に思ったことは、今ある幸せは当たり前でないということです。豊かな暮らしをしている私達が戦争に遭ってしまったらどうなるのでしょうか？戦争について知らない人が多いため、きっと77年前よりもっと悲惨なことになると思います。理想の世界の未来のために、今ある幸せに感謝しながら生きて行こうと思います。

1. 事前学習「原爆の被害・惨状」

(1) 原爆による被害

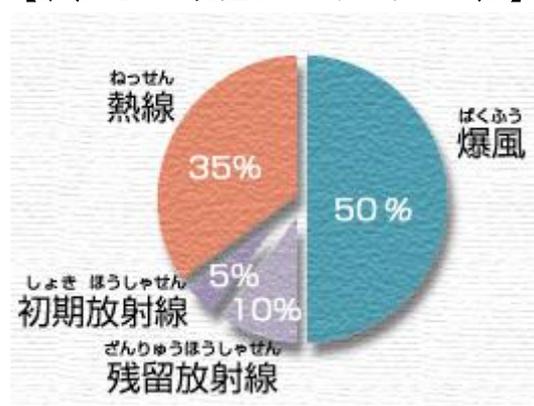
1945(昭和20)年8月6日午前8時15分、広島に投下された原子爆弾は、地上600mの上空で爆発しました。原爆投下によって亡くなった人の数は正確にはわかりませんが、1945(昭和20)年12月末までに約14万人(±1万人)が亡くなったと推定されています。爆発の瞬間、熱によって空気が急に膨らんで、数十万気圧というものすごい圧力をもった爆風が発生しました。爆風の強さは、爆心地から500メートルの場所では、1メートル四方の広さに19トン(自家用車約15台分)という巨大なもので、ほとんどすべての建物が押しつぶされ、人は吹き飛ばされ、建物の下敷になって亡くなりました。

(2) 原爆被害の特徴

原子爆弾は、それまでの爆弾とは全く違ったものでした。爆発の瞬間、物凄い温度の熱線と放射線が発生しました。そして、温度が上がって周囲の空気が膨張しすさまじい爆風を巻き起こしたのです。

さらに、これらが複雑に関係しあって、被害をさらに大きくしました。この熱線、爆風、放射線の3つのエネルギーによって瞬間的に、そして無差別に、大量の破壊・殺戮が引き起こされました。

【原爆によって発生したエネルギーの内訳】



引用元／広島平和記念資料館

(3) 放射線による被害

原子爆弾が、それまでの火薬を爆発させる爆弾とちがうのは、爆発したときのエネルギーが桁はずれに大きいことと、放射線を出すことです。

広島では、原爆が爆発して1分以内に「初期放射線」が大量にふりそそぎました。これが人の体に大きな被害をもたらしたのです。特に、爆心地から1Km以内で直接放射線を受けた人は、ほとんど亡くなりました。さらに、その後は「残留放射線」がありました。

このため、直接被爆しなかった人でも、救援・救護活動や肉親などを探すために爆心地近くに行った際に、放射線を受け、中には病を患ったり、亡くなったりする人も出ました。

(4) 感想

原爆の残虐的な被害を受け、その悲惨さを知っている日本だからこそ平和の大切さを発信していく必要があると感じました。

2. 学びの記録「ヒロシマの心を世界に2022」

8月7日に広島市立舟入高等学校演劇部の演劇「ケイショウ〜『ある晴れた夏の朝』から考えたこと〜」を鑑賞しました。

(1) 鑑賞して

物語は核保有について賛成反対に分かれて議論を行うという内容でした。一人ひとりが自分の考えを持っており、話し合いが繰り広げられましたが、賛成、反対どちらも平和を思う気持ちは変わりませんでした。

しかし、核兵器をなくすことは難しい状況であるため、核にどう向き合うか、実現するためにどうするか、更に考える必要があると思います。核ゼロに向けてたくさんの考えがありますので、何か行動ができると思います。核保有賛成、反対の人はもちろんですが、賛成も核を持つことで互いに牽制し合い攻めることができないため争いを無くすための有効手段であり、平和に向かっています。

私の考えとして核を持つ、持たないではないそういった明るい未来を目指すべきだと思います。



写真転載元／広島市立舟入高等学校演劇部



お互いに核を持つことで
抑止力となり攻めづらくなる

(2) 最後に

核兵器廃絶の道りは決して平坦ではありません、一人ひとりが核兵器はあってはならないものだと考え、明るい未来を目指す信念を持ち続け発信すべきだと思います。

一つの意見にとられるのでは無く平和とは何か、どうあるべきか考えることが必要になると思いました。

3. 学びの記録

この3日間は、人生で一度経験ができるか分からない体験をすることができました。実際に被害を受けた広島でしか学べないことや感じられないことがたくさんありました。

また、実際の被害の写真や場所を訪れることで、いかに原子爆弾が残酷であり、悲惨なものなのか改めて知ることができました。

現在、多くの国が核を持っており、核をなくすための発信などの努力が必要になっていると思います。一日一日平和に生きていけることに感謝し、そして原爆が落とされた「あの日」を忘れずに後世に伝えていくべきです。

私は2日目に行った灯籠流しでたくさんの思いが込められている、流れていく灯籠を見て全員が平和を思う気持ちは変わらないのだと実感することができました。何事にも協力し、助け合うことが大切なのではないのでしょうか。

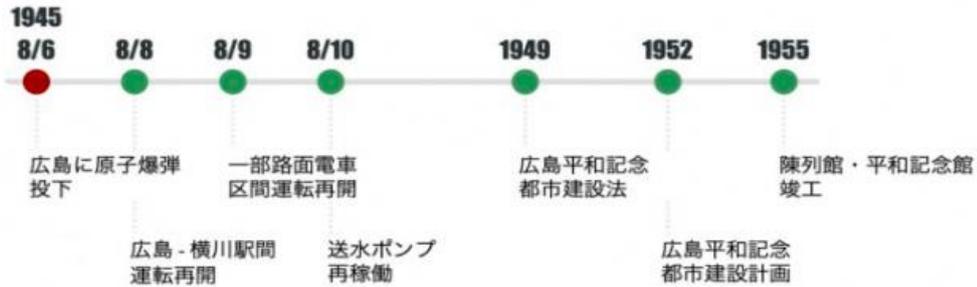
現在、世界では戦争が行われています。あの悲惨な過去を繰り返さないためには広島で学んだことなど多くの人に伝え、平和の実現に向けて行動をしていくべきだと感じました。



写真／広島記念公園噴水

1. 事前学習「戦後の復興」

広島に原爆が投下され、「75年は草木も生えぬ」と言われていました。そんな中1949年に「広島平和記念都市建設法」が公布され、戦後の復興を後押しします。



引用元/<https://hiroshimaforpeace.com/>

(1) 広島復興計

- ① 緊急性の高い応急の復興対策
爆死没者の会葬、瓦礫の撤去、危険建造物の除去、上下水道の復旧、交通網や電力などの復旧、応急住宅建設などが含まれます。
- ② 国が閣議決定した「戦災地復興計画基本方針」に基づく復興都市計画
道路、公園緑地、土地区画整理の各計画が策定されました。

(2) 広島平和記念都市建設法とは

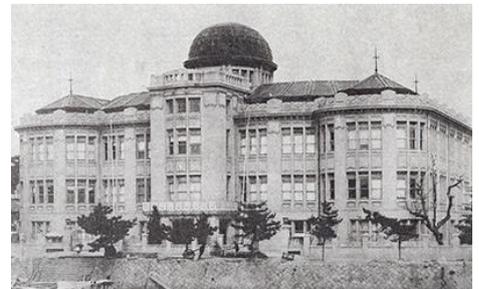
「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴」として広島の都市づくりを進めようという法律です。これにより、国の財政的な支援を特別に受けることなどができるようになり、広島の復興は大きく進みました。

(3) 復興

1945年8月6日 原爆投下
8日 山陽本線 広島駅と横川駅間の運転を再開
9日 一部路面電車区間の運転を再開
10日 上水道の送水ポンプの稼働再開
再開後も漏水に悩まされていました。水道管の補修も難工事であり、市周辺部にまで給水ができる状態に復旧するまでに9か月を要しました。

(4) 原爆ドーム

原爆ドームは、被爆前は「広島県産業奨励館」という名前でした。右の写真が被爆前の写真です。原爆によって全焼してしまった広島県産業奨励館（原爆ドーム）を保存するために募金が始まり、集まった金額は総額6600万円でした。この募金により、1967年に保存工事を行いました。



所蔵・提供/広島平和記念資料館

広島の復興には、国からの支援や募金への参加など、多くの人々の協力が必要不可欠でした。たくさんの方々の協力により、今の広島の姿になっていったことが分かります。

2. 学びの記録「広島平和記念資料館」

広島派遣1日目、広島平和記念資料館を訪れました。資料館には、様々な写真や物があり、どれも見ているだけで辛いものでした。私が広島に行って特に学びたいと思っていた、原爆投下時や投下後の様子や、実際に何が起こっていたのかを知ることができました。音声ガイドも聞くことができ、より深く知ること、考えることができました。

(1) 弁当箱と水筒

資料館にあった実際の衣服や物の中に、子どもの弁当箱と水筒がありました。私はこの弁当箱と水筒がとても心に残っています。なぜなら、まだ小さい子どもが原爆による被害を受けていたということ、改めて感じさせられたからです。小さな子どもが原爆によって亡くなったなんて、真実だとしても信じられませんでした。しかし資料館に行き、実際のものを見て、「本当にあったんだ」という現実を突きつけられました。中でも弁当箱と水筒は、子ども2人が持っていたものだ、という説明があり、私にとってとても辛いものでした。

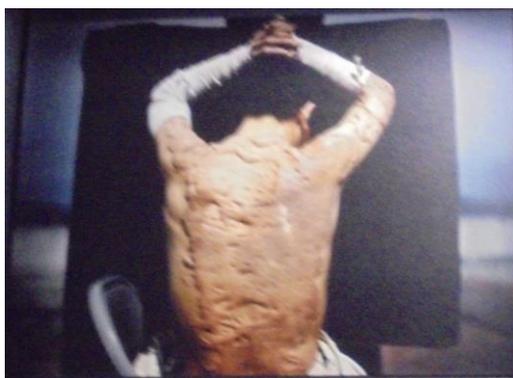
(2) N家の崩壊

「Nさんは、被爆して全身に火傷を負った。2年後には少しずつ回復したがそれも長くは続かなかった。その後妻を亡くし、子どもを殺して自分も死のうと考え、子どもの首に手をかけたが、どうしても手に力が入らず朝を迎えた。生きていくしかなかった。」

これはある被爆者家族の光景です。私はこのようなことが起きていたと知り、どれほど現実が辛かったのか、とてもよく分かりました。もう2度とこんなことが起きない、起こさない世界を、一人一人が努力して作っていきたいです。

(3) 後遺症

原爆による後遺症には、視力を失うことやケロイドが残ることなどがあります。ケロイドとは、右の写真のように傷が大きく盛り上がったもので、少しずつ拡大していくことが特徴です。原爆は、投下されたその時だけでなく、その後も長期に渡って人々を苦しめています。たった1度で、何千何万の人が苦しみ、体と心に傷を負いました。こんなことはもう2度と起きてはいけなく強く思いました。



写真・所蔵／広島平和記念資料館

(4) 最後に

原爆の現実を知り、改めて原爆の悲惨さや残酷さを感じました。資料館でたくさん学び、より原爆について考えを深めることができ良かったです。学んだことや感じた気持ちを忘れず、これからの自分の考え方や行動に生かしていきたいと思えます。

3. 学びの記録

私は、この広島平和記念式典派遣事業で、たくさんの貴重な経験をすることができました。

(1) 原爆ドームについて

はじめて原爆ドームを見たときは、その迫力に驚きました。

しかし、最終日に見た原爆ドームは、迫力だけでなく、平和の大切さを伝えてくれるように感じました。戦争を繰り返してはいけないという事や、平和の大切さを伝える原爆ドームが、いつまでも残っていてほしいと思います。



写真／現地で撮影の原爆ドーム

(2) 心に残った事について

全て貴重で大切な経験でしたが、私の中で特に心に残ったことは2つあります。

1つ目は「ケイショウ～『ある晴れた夏の朝』から考えたこと～」を観劇したことです。私は今まで核抑止という考えを知らず、核は絶対になくなるべきと考えていました。しかし、劇を見て核抑止を知り、核を全て廃絶するより、核を保持し続けて核抑止を行った方が現実的に核戦争をなくせるのでは、という考えもあることを知りました。

2つ目は千羽鶴奉納で見たたくさんの千羽鶴と、灯籠流しの際に流されていた数え切れない数の灯籠です。このたくさんの千羽鶴と灯籠の数だけ平和への思いがあり、たくさんの人が平和を願っているのだということを感じられました。

(3) 理想の未来の世界のために

令和4年度報告会での私達のテーマは『理想の未来の世界』でした。私の理想の未来の世界は、世界中が笑顔で溢れている世界です。たくさんの人が笑顔になり、いつか国境を越えてたくさんの人が笑い合えるような世界を、私は目指していきたいです。

今まではただ漠然と「戦争はいけない、平和が大事」と思っていたのですが、今回広島に行き、たくさんのことを学び、感じ、考え、戦争や自分の思う平和について考えることができました。また、平和のために自分にできることについて考えるきっかけにもなりました。

平和のために私にできることは、この派遣事業で学んだこと、感じたことを周りの人などに伝えていくことだと思います。たくさんの人に戦争や原爆について知ってもらい、意識を持ってもらうことが、私は平和に繋がっていくと思っています。そして友達など、周りの人を大切にしていきたいと思いました。

(4) 最後に

派遣事業を通して私が考えた平和とは、今私達が笑顔で毎日を過ごしていることです。自分自身の思う平和に近づけるよう、努力していきたいと思っています。

1. 事前学習「原爆の被害・惨状」

(1) 戦争の前の広島

広島には太田川が流れ、南には瀬戸内海があり「水の都」として独特の景観を生み出している街でした。明治維新により近代的な第一歩を踏み出すと洋風な景観の家が建ち、橋がかけられ、道が整備されて商業が発達した都市となりました。1894年から日清戦争が始まると広島は兵員、物資の輸送基地となり、軍の諸施設が建てられ、少しずつ日本の「軍都」となっていたのです。



◀原爆投下前の広島の様子

引用元／朝日新聞デジタル

(2) なぜ広島に原爆が落とされたのか

戦争時、日本の主要都市はアメリカの空襲により壊滅的状態でした。そんな中アメリカが原爆を落とす場所の条件として次の2つがあったと言われています。

- ①都市の大きさや地形が、原爆の破壊能力を実験するのに適当であり、同時に原爆投下後の破壊効果を確認しやすかったこと。
 - ②軍隊、軍事施設、軍需工場などが集中し、しかも無傷であったこと。
- 他にも候補地がありましたが、広島には捕虜収容所がないために第一目標に選ばれました。

(3) なぜ原爆を使わなければならなかったのか

「日本での上陸戦争をやめ、早くこの戦争を終わらせるために多くの被害を与えることのできる原爆を使った」とアメリカ政府から発表されています。

(4) アメリカはなぜ日本の都市である東京を狙わなかったのか

- ①東京は対空防御が高いと予想していたこと。
 - ②アメリカの目的は日本を降伏させることであり、日本の中核機能が集まっている東京を破壊すると降伏と判断する人がいなくなってしまうこと。
- 上記の考えと、先出の(2)で挙げた条件とが重なったのが広島と長崎でした。

(5) 私の感じたこと

最初は原爆がただだめなのだと思っていました。しかし、アメリカもはっきりとした気持ちを持っていたので、とても複雑な気持ちになりました。

2. 学びの記録「広島平和記念式典」

2日目の朝、私達は広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（広島平和記念式典）に参列してきました。

式典には過去最多の99カ国が参列し、また、国連事務総長は2度目の参列となり、参列者数2,854人の大規模な式典となりました。

式典では、広島市長や広島県知事、内閣総理大臣、国連事務総長、子ども代表など多くの方々からの挨拶がありました。その挨拶の中にこんな言葉がありました。

『核兵器は、誰かがボタンを押せば、人類の持続可能性は30分かもしれません』

この言葉を聞いたときどんな事を考えるでしょうか？核兵器はあまりにも簡単に日常を壊してしまいます。各代表の方の挨拶では核兵器の危険性、核兵器廃絶に向けてなどを世界に向けて発信していました。私達はこの言葉からどう生活していくのか考えなければいけないと思いました。

また、被爆者の方はウクライナの惨状と原爆の

光景を照らし合わせて言いました。

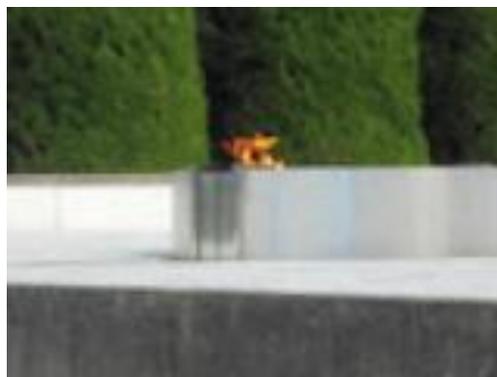
「もう私達のような人をつくらないでほしい」

「あのような光景を二度と見たくない」

戦争は昔のことではなく今も起きていることだという危機感を改めて抱きました。

広島平和祈念式典は核兵器の危険性や平和の尊さを発信していく場です。このような場が、戦争がなくなるまで、そして、戦争がなくなっても記憶を伝えていくためにあり続けるべきだと思いました。

私達の行動が平和への小さな一歩になり、平和な世界をつくることができればいいと思います。



写真／会場で灯る平和の灯火



写真／広島平和都市記念碑

3. 学びの記録

この3日間は私達にとって貴重な経験となりました。広島に実際に行き、耳と目と肌で様々なことを感じてきました。

原爆ドームには『戦争を思い出すから取り壊してほしい』との声もあったそうです。

では、なぜ原爆ドームは今もなお、世界遺産として顕在しているのでしょうか？ガイドの方や被爆者の方のお話を聞き、そして私なりにも考えてみました。

原爆は威力が凄まじく、跡形もなく広島を壊しました。そんな中、奇跡的に残った建物の一つが原爆ドームでした。戦争の悲惨さを後世に伝えるために残されたのだと聞きました。しかし、私の中では原爆ドームは世界に平和を訴える平和の象徴として心に残っています。

私達、平和大使の仕事はこれで終わりではないと思います。これからが本番です。広島で学んできたことを様々な形で燕の皆さんに伝えていきます。

私達の小さな言葉が、皆さんが一步を踏み出すきっかけとなり、世界平和という大きな目標への道を作る一步になればと思います。



写真／現地で撮影した原爆ドーム

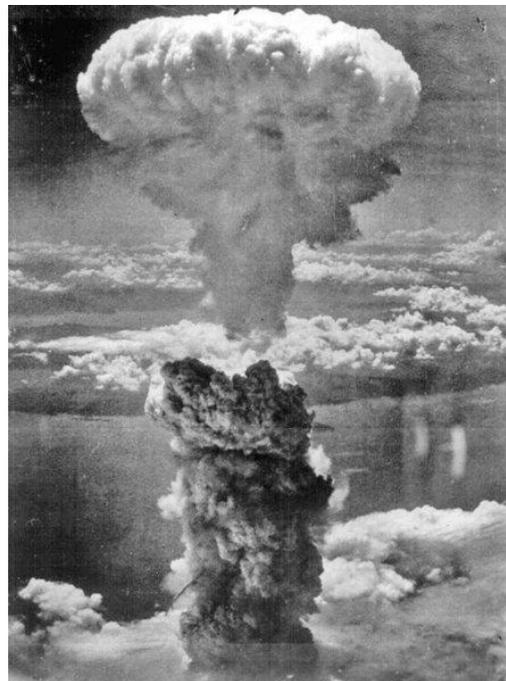
1. 事前学習「戦時下の暮らしについて」

「どのように生活するか」ではなく、「どうやって生活するか」を考える人が多くいました。

1日分の食料を確保すること自体が難しく、確保できなかった人から徐々に餓死していってしまうことも多くあったそうです。戦争下で、いつ敵の兵隊が襲ってきてもおかしくない状況であり、常に緊張下に置かれていました。街には、「贅沢は敵だ!」というような看板があったり、飲食店の営業時間が23時までになったりするなど、お金を贅沢に使うことに対して批判的な活動が見られることもありました。



写真・引用／国民の中で贅沢をする者は敵であるという政府からの抑圧の看板
<https://www.zakzak.co.jp/smp/society/domestic/news>



写真・引用／原子爆弾投下の様子
<https://www.bing.com/images>

このような生活を強いられてきた市民は、戦争が終わった後も苦しい生活をしなければならない状況にありました。

特に苦しい生活を強いられたのは、広島と長崎の市民です。8月6日には広島へ、8月9日には長崎へ原子爆弾が投下されました。その被害は甚大なもので、死者数は14万をも超えると言われています。兵器1つでこれだけの命を奪い取っていくのは残酷なことだと思います。

しかしこの兵器がもたらしたのはそれだけではありません。その地周辺を一瞬にして焼け野原にしただけでなく、放射性物質による後遺症が今も残っている人もいます。

このような出来事が今でも語り継がれています。自分とは無関係だと思わず、少しでも今ある平和について理解を深めようとする意識が大切だと思いました。

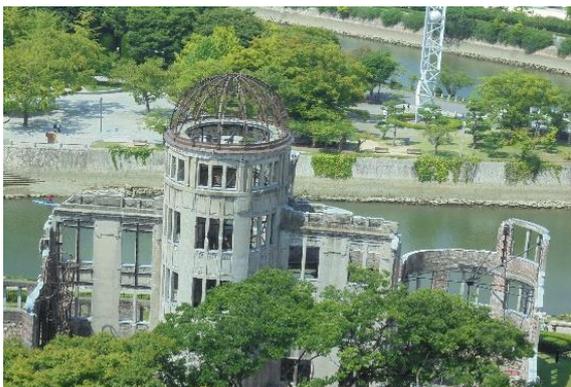
2. 学びの記録「原子爆弾」

(1) 原子爆弾投下

広島に原子爆弾が投下されたのは、8月6日の朝8時15分であり、早朝ということもあり、逃げ遅れる人が多くいました。結果、14万人もの人々が原爆の被害に遭いました。範囲も広く、多くの建物が破壊されました。しかし今では復興作業が進み、多くの緑を見ることができるようになりました。原爆の被害を受けた広島の人々は、悲惨な経験を乗り越え、交通機関や経済活動も復興させ、豊かな都市へと変化を遂げました。

(2) 原爆ドーム

原爆ドームは、原爆の被害を受けたが残存した建物です。被害を受けた当時のままの姿で残り続けています。実際に原爆ドームを見てみると、建物内に崩れた瓦礫が大量に落ちていて、当時の悲惨さが頭に浮かびました。画像で見ると現物で見ると、見える範囲も違うし、何よりも迫力が違いました。実物を見ると、その建物の歴史を想像し、凄絶な原爆の威力を容易に想像できました。



写真／現地で撮影した原爆ドーム

(3) 広島派遣を通して

広島平和記念式典の参列など、人生で1度しか経験できないようなことを体験することができました。

今回の派遣を通して、戦争の悲惨さや、今ある平和の大切さについて改めて知ることができました。そのような体験をした人間の一人として、多くの人に平和について知ってもらいたいと思うと同時に、積極的にそれを知らせていきたいと思いました。



写真／灯籠流し台紙に思いを込めて

3. 学びの記録

今回の広島派遣を通して、今までにない様々な経験をする事ができました。

特に印象に残っているのは、原子爆弾の被害の恐ろしさと、今ある平和についてです。もともと学校の授業や事前学習などで、原子爆弾が広島に大きな被害を与えたのは知っていました。しかし、広島に行かなければ感じられなかったこともあります。それは、広島にもたらした被害は、人や建物だけでなく、多くの人間の心にも影響を与えたということです。

原子爆弾は、建物だけでなく、多くの人を死なせてしまった兵器です。仮に自分が当時の広島にいたとして、身内や友達に被害があったとするならば、その人たちの体だけでなく、自分もショックを受けていたと思います。原子爆弾は、人や建物だけでなく、人の心までも傷つけてしまうような、残酷な兵器だということを改めて認識する事ができました。



写真／原爆が投下された直後の広島の様子

原爆投下によって亡くなってしまった方の数や被害の規模は甚大でした。唯一の被爆国として悲惨な経験を踏まえて、今の日本があるのだらうと思います。これからはもう2度と戦争のない世界になってほしいと、心の底から思うことができるようになりました。

私は平和について改めて考えました。戦争がないだけでは「平和な世界」は訪れません。広島に行った自分たちに

しかできないことを、これからするべきだと思いました。

もし自分が広島へ行っていなかったら、今ある平和をただ眺めるだけの人間になっていたと思います。しかし、広島に行き、戦争の悲惨さや平和の尊さについて学んできて、その経験を生かすべきだと感じました。

そして、今ある平和を当たり前だと思わずに、大切に思ってくれるような人たちがもっと増えるよう、伝えていきたいと思っています。

広島派遣に行ってきた皆さんの経験をさせてもらって、本当に良かったと思います。広島平和大使として学んできたことを周囲の人々へ伝え、平和について考えられるような人がもっと増えることで、僕たちが生きる未来がより「平和な世界」に近づくことを願います。



写真／平和大使として広島へ向かった5人の集合写真

個人的で、奥行きのある考えや思い

(引率者) 学校教育課 篠崎 健太郎

新型コロナウイルスの影響により、感染対策が当たり前となって、早や2年半以上が経ちました。今年度の派遣事業が行われた8月初旬には、新型コロナウイルスの変異株による感染者数が、全国で連日20万人を超えており、派遣できるか危ぶまれましたが、3年ぶりに実施することができました。

今回の派遣には、様々な制限がありました。お好み焼きはお店では食べず、買ったものをホテルに持ち帰って食べました。食事は、向かいあわずに座り、黙食です。交通機関の移動中も、あまり会話をすることができません。私も派遣生徒も、それらは仕方のないことだと受け止めて、行動していました。

派遣から戻った後、3年前の派遣事業の報告会の映像を見ました。そこでは、以前には当たり前だった、マスクを付けずに行われた活動の報告がなされていました。人間は何事にも慣れる存在だ、という言葉があります。考えてみると、今年度派遣された中学3年生は、中学校入学時から感染対策を求められた学年です。コロナ禍の中での派遣事業という観点で振り返ったとき、今年度の派遣には、これまでとは違う新たな意義もあったように感じます。



今回の派遣では、私は生徒達に、広島に実際に行って見聞きしたからこそ得られた、言葉になかなかならない感情や考えを大切に、個人的な体験を深められるとよい、と伝えていました。広島に原爆が落とされた日の様子、原爆ドームが世界遺産にいつ登録されたかなど、多くの情報は、本やネットを通して調べることができます。しかし、生で見ることや、生で話を聞くことで、頭ではなく、身体全体で理解した感情や思いが生まれます。それはどれも個人的な体験であり、ひとり一人の心の中にだけ存在する、かけがえのないものです。





私の個人的な体験を話します。私にとって、広島を訪れたのは、今回が初めてでした。原爆ドームに関する知識はもっていましたが、初日に原爆ドームに行ったとき、負の世界遺産としての意義を感じながら眺めました。その後、被爆体験講話を聴き、広島平和記念資料館を見学し、被爆体験記朗読会に参加しました。1945年8月6日という日が、私の中で個人的な具体性を帯びました。最終日の3日目、おりづるタワーを訪れたとき、原爆ドームを改めて眺めました。そのときの感情は、初日とはまったく異なるものでした。うまく言葉にはできません。8月6日に起こったこと、その後77年の歩み、そこにあった平和や静寂、それらが去来していたのだと思います。言葉にならないその感情は、大切なものとして、私の心の中に残っています。

派遣生徒の皆さんのひとり一人の心の中にも、言葉にうまくできない大切な思いが生まれ、とどまっていると思います。核廃絶に向けた取組についていまいふこと。ウクライナでの惨状のニュースを見聞きしたときにいま感じること。派遣前にはなかった、個人的で、奥行きのある考えや思いを抱いていると思います。これからの人生において、その思いをずっと大切にしていってください。理想の未来への道しるべが、そこにきっとあります。



受け継ぎ、託されてゆくもの

(引率者) 学校教育課 小川 綾花

私は 2019 年に広島平和記念式典派遣事業を担当し、初めて広島を訪れました。まちのあちこちに残る慰霊碑や、当時のまま大切に保管されている資料から、当時の惨禍の生々しさと凄惨な実相を知り、また、絶望の中にありながらも力強く復興を遂げ、『平和へのバトン』を繋いできた未来への想い、願いの強さに心が震えました。

個人的ではありますが、前回の広島訪問で平和大使とともに、私自身も多くの学びを得ることができました。中でも、生きることを諦めないこと、ともに支え合うこと、これからを生きる子どもたちのためにできること…様々な想いや願いが『平和へのバトン』に込められていることを学びました。

しかし、前回私が学んできたものは、ほんのわずかな一点です。あの日から生きる一人一人が異なる人生を歩み、それぞれの想いの点が交錯し、『平和へのバトン』という大きなものを作り上げているからです。

今回、再度の機会をいただき、平和大使とともに、私自身もまた、前回とは異なる想いの点を見つめることを、自身の課題のひとつとして被爆体験講話の会場へと向かいました。

「父は 35 歳で被爆し、あの日から死んだような目をして、働くようなことはありませんでした。母は必死に働いて、働いて、働きました。父母の諍いの絶えない生活の中で、私は、そんな父をずっと疎ましく思っていました。」

被爆体験講話の講師の波田様は、当時の様子を静かに語ってくださいました。原爆は目に見える傷が癒えたころ、様々な疾患を引き起こします。これを原爆後障害といい、その一つに体力・抵抗力の低下、体のだるさ、疲れやすさを訴える原爆ブラブラ病があります。波田様のお父様は、それを発症したことから寝たきりになり、お母様が 1 日働いて手にできる 240 円で一家 3 人が必死に生きてきたことを話されました。

それから、これまでに家庭を築き、育児をしながら定年まで勤めた後、被爆体験講話講師として後世に『平和へのバトン』をつながれています

私は、激動の戦後から現在までの間に、お父様へ向けた想いに変化があったことを話された言葉が、心の深くに残りました。

「たった一つの原子爆弾は、温かい家庭生活を奪いました。父は 45 年間、あの日から働きたかったろうに、働けなかったのだと気付きました。父のことを分かろうと考えたのは、亡くなる間際のことです。気づいたら涙が出ました。」

私は当初、複雑な波田様の心の機微に触れたような気持ちで、そのお話を聞いていました。しかし、翌日の平和記念式典の中でもっと重要なことに気付かされます。





【本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとする事です。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。】

これは、今年度の子ども平和の誓いの一文です。本当の強さとは、武力や腕力等の物理的な強さではなく、心の持ち方を指しています。人は、深い悲しみや憎しみに心が捉われてしまうと、他を理解したり、受け入れたりする余裕がなくなります。波田様が、当時を思い返すことも辛かったはずの中で、45年の時を超えてお父様への想いに立ち止まり、考え、そして理解しようとする事はきっと容易ではなかったと思います。私は『本当の強さ』を目の前で感じたからこそ、心に深くあの言葉が残ったと気付きました。

原爆投下から77年経過した、2022年8月6日現在まで原爆死没者名簿には、33万3,907名の方が登録されています。その一人一人が異なる人生を歩み、平和を想い、そして誰かを想う気持ちがあったと思います。そのそれぞれの想いを乗せた平和への願いはバトンとなり、あの日から残された人へと受け継がれ、そして次の世代へと託されていきます。

今回の派遣で、様々な未来への想い、願い、祈りを乗せた『平和へのバトン』は平和大使の皆さんの手にもしっかりと握られたはずで、平和とは、努力し、意識して築き上げていくものです。その築き上げられてきた平和を繋いでいくことは、今を生きる私たちの大切な役目です。そして、『平和へのバトン』に込められた様々な想いに目を向けることも、これからを生きる私たちの課題です。

私は今回、自身の課題としていた『平和へのバトン』に込められたものの一つに『本当の強さ』を学びました。そして、私にも託されたバトンからは『本当の強さ』を持っているか、また、その強さを持ったとき、どんな未来を創造したいかと問われているような気がします。その答えを自分なりに探しながら、未来へと手渡していきたいと思っています。

最後になりますが、皆さんと共に貴重な体験をし、学び、過ごせたことに深く感謝いたします。

本当に、ありがとうございました。



派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業および平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに、次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点で命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成すること。

(2) 主な活動内容

- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- ②広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- ③原爆の子の像に各校で制作した千羽鶴を奉納
- ④被爆体験講話の受講
- ⑤とうろう流しへの参加
- ⑥市民への報告（市内会場で報告会を実施）
- ⑦全校生徒への報告（2学期に各学校で報告会等を実施）
- ⑧報告書の提出

広島派遣時

派遣後

1. 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動を進めるため、役割分担をする。

役割分担の内容		氏名 (中学)
(1)	ミーティング・被爆体験講話司会	竹田 心音 (燕北中)
(2)	記録 (見学・訪問先等)	田中 大成 (吉田中)
		小林 日向 (分水中)
(3)	被爆体験講話講師へお礼のことば	栗谷川 恋 (燕 中)
(4)	引率者との連絡調整	長谷川 宙生 (小池中)

2. 学習の過程および分担

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習

事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- | | |
|--------------|---------------|
| ①日程および資料の確認 | (担当： 全 員) |
| ②被爆体験者への質問 | (担当： 全 員) |
| ③太平洋戦争戦時下の生活 | (担当： 小林 日向) |
| ④広島原爆投下の背景 | (担当： 田中 大成) |
| ⑤原爆の被害・惨状 | (担当： 長谷川 宙生) |
| ⑥戦後の復興 | (担当： 竹田 心音) |
| ⑦現在の世界情勢 | (担当： 栗谷川 恋) |

(2) 学びの記録

以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

- | | | |
|------------|-------------------------------------|---------------|
| 広島での
学び | ① 広島平和記念公園 | (担当： 栗谷川 恋) |
| | ② 広島平和記念資料館 | (担当： 竹田 心音) |
| | ③ ヒロシマの心を世界に 2023 | (担当： 長谷川 宙生) |
| | ④ 原子爆弾 | (担当： 小林 日向) |
| | ⑤ 広島平和記念式典
(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式) | (担当： 田中 大成) |

(3) 学びの報告 (まとめ)

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、また、これらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

3. 広島平和記念式典派遣事業報告会

日 時：令和4年9月4日(日)午前10時30分から11時30分

場 所：吉田産業会館2階多目的ホール

広島平和記念式典派遣事業の様子



被爆体験講話(8/5) 9歳の時、爆心地から20Kmの避難先でキノコ雲を目撃し、入市被爆*した波田保子様のお話を伺う(※爆心地から半径2Km以内に2週間以内に入った方のこと)



原爆の子の像へ千羽鶴の奉納(8/5)



広島平和記念資料館見学(8/5)



灯籠に平和への願いを込めて(8/6)



原爆死没者慰霊碑に献花(8/6)

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列(8/6)



ヒロシマの心を世界に2022 見学(8/6)



被爆体験記朗読会に参加(8/6)



現地のボランティアガイドによる平和記念公園の散策(8/6)



報告会の様子(9/4) およそ100名の方々がご来場くださいました

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕市 平成30年4月 植樹



令和4年度 広島平和記念式典派遣事業
平和大使 活動報告書

派遣期間：令和4年8月5日（金）～7日（日）

燕市教育委員会学校教育課